

2020年度 外国語学部報告

PLAN(計画)	DO(実施)		CHECK(評価)		ACITON(次への改善)
P:目標を策定、実現するための具体的な方法を考える。	D:計画を実行しその効果を測定する。		C:目標とその実践の差異、実践した行動の評価・分析を行う。		A:課題や問題点についての改善、対策を行い、次への「PLAN」へ繋げる
		実施状況(実施率)	評価	評価の理由/課題/根拠データ等	
1. 教員組織の編成と運営 (1)適切な組織編制 ①教授・准教授・助教のバランス ②専攻別のバランス ③男女のバランス ④年齢別の割合 ⑤学術型教員、実務型教員の割合 (2)FDの状況 ①科研費の採択 ②FD研修会の実施	1. 全体として、ほぼ実施 (1)適切な組織編制 ①教授:准教授:助教=14:13:1 ②ビジネス専攻:教養専攻=8:11 ③男:女=15:13 ④60代:50代:40代:30代=11:8:8:1 ⑤学術型:実務型=24:4 (5)FDの状況 ①継続: 10、新規: 2 ②必要に応じて実施	1. 全体90% (1)80% (2)90%	1. 全体としてA (1) B (2) A	1. 全体として、良好 (1) ②ほぼ同数が望ましい。 ④ほぼ同数が望ましい。 ⑤専攻間のバランス。 (2) ①新規採用が望ましい。	1. 2020年度の計画を2021年度にも踏襲する。 (1) ②新採用の機会をとらえるなど、是正を試みる。 ④新採用の機会をとらえるなど、是正を試みる。 ⑤新採用の機会をとらえるなど、是正を試みる。 (2) ①新規採用を
2. 学生募集(とくに入学試験)の目標と達成 (1)定員の充足 ①学部の定員 ②専攻別入学者数のバランス	2. 全体として、ほぼ実施 (1)定員の充足 ①充足率: 99.2% ②ほぼ達成	2. 全体99% (1)99%	2. 全体としてA (1)A	2. 全体として、良好 (1) ①入学辞退者の増加	2. 2020年度の計画を2021年度にも踏襲する。 (1) ①入学辞退者数を減少させる対策を講じる。 ②専攻別入学者数のバランスをとる。
3. 教育目標の設定と達成 (1)授業満足度の向上 (2)少人数教育の実施(学生定員1060/専任教員数) (3)退学率の低減 (4)留年率の低減 (5)学修成果の評価と可視化 ①DP到達度チェックの実施 ②外部試験の導入	3. 全体として、ほぼ実施 (1)40~50%(一昨年度22.9%) (2)学生数/専任教員数: 37.1 (3)4.5%(昨年度5.2%) (4)国ビ: 14.7%、国教: 28.8% (5)学修成果の評価と可視化 ①予定通り実施 ②予定通り実施	3. 全体90% (1)90% (2)90% (3)90% (4)90% (5)90%	3. 全体としてA (1)A (2)A (3)A (4)A (5)A	3. 全体として、改善必要 (1)改善継続が望ましい。 (2)2年生ゼミが望ましい。 (3)改善継続が望ましい。 (4)改善継続が望ましい。 (5) ①フィードバック強化。 ②選択的整理が必要。	3. 2020年度の計画を2021年度にも踏襲する。 (1)FD研修など、満足度向上の対策を講じる。 (2)全学年にゼミ形式科目の導入を検討する。 (3)履修指導など、クラス担任による指導を強化する。 (4)履修指導など、クラス担任による指導を強化する。 (5) ①委員会、プロジェクトチームによる改善案の策定 ②委員会による改善案の策定
4. 学生支援目標の設定と達成 (1)新入生特別研修 (2)奨学金制度 ①活用 ②学生支援機構奨学金延滞率 (3)文化教養講座の実施 (4)英語スピーチ大会などへの参加 ①プレゼン大会 ②英語スピーチ大会	4. 全体として、ほぼ実施 (1)オンライン実施 (2)奨学金制度 ①コロナ禍の特別支援の実施 ②6.7%。在学中の学生指導を実施 (3)韓国関連の講座をオンライン実施 (4)大会などへの参加 ①複数の入賞 ②中止(コロナ禍)	4. 全体95% (1)90% (2)90% (3)100% (4)90%	4. 全体としてA (1)A (2)A (3)A (4)A	4. 全体として、良好 (1)参加率が低い。 (2) ①活用率が高い ②指導が必用 (3)プログラムを継続する (4) ①支援制度が必用 ②オンライン実施が可能	4. 2020年度の計画を2021年度にも踏襲する。 (1)参加率を上げる。 (2) ①活用率の維持 ②奨学生の就職率を高める対策を講じる。 (3)プログラムを継続する。 (4) ①支援制度を検討する。 ②委員会による改善案の検討
5. 国際交流(とくに留学)目標の設定と達成 (1)学生の派遣・受け入れの促進 ①派遣 (i)留学特待生、姉妹校交換留学 (ii)語学研修(短期と長期) ②受け入れ (i)連携教育プログラム (ii)姉妹校からの受け入れ (2)教員レベルの国際交流の強化 ①派遣 ②受け入れ	5. 全体として、ほぼ中止 (1)学生の派遣・受け入れ ①派遣 (i)選考を実施、しかし派遣中止。 (ii)選考を実施、しかし派遣中止。 ②受け入れ (i)一部実施。 (ii)一部受け入れ。 (2)教員レベルの国際交流の強化 ①なし ②なし	5. 全体50%	5. 全体として、評価できない (1)オンライン実施を検討 ① (i)合格者の資格延長 (ii)合格者の資格延長	5. 全体として、中止 (1)オンライン実施を検討 ① (i)合格者の次年度派遣を目指す。 (ii)合格者の次年度派遣を目指す。	5. 2020年度の計画を2021年度にも踏襲する。 (1)オンライン実施を検討 ① (i)合格者の次年度派遣を目指す。 (ii)合格者の次年度派遣を目指す。
6. 進路(とくに就職)目標の設定と目標 (1)就職率の向上 (2)インターンシップの参加率 (3)企業説明会や就職セミナーへの参加率 (4)英語教員の養成	6. 全体として、ほぼ実施 (1)就職率92.5%(2021.4.30) (2)国内参加14、海外(オンライン)3 (3)とくに国際教養専攻の参加率が低い (4)正式採用9名。	6. 全体90% (1)90% (2)100% (3)80% (4)80%	6. 全体としてA (1)A (2)A (3)A (4)A	6. 全体として、良好 (1)前年度より低い (2)参加率が高い (3)国際教養の低参加率 (4)志望者が少ない	6. 2020年度の計画を2021年度にも踏襲する。 (1)就職率を前年度に近づける。 (2)国内参加率を維持し、海外参加率をあげる。 (3)とくに国際教養専攻の参加率をあげる。 (4)志望者を増やす。
7. 地域貢献 (1)文京区との連携 (2)町会活動への貢献	7. 全体として、ほぼ実施 (1)甲斐田万智子ゼミが活動 (2)例祭への参加(おみこし)中止。	7. 全体90% (1)100%	7. 全体としてA (1)A	7. 全体として、良好	7. 2020年度の計画を2021年度にも踏襲する。

2021年度 外国語学部

PLAN(計画)
P:目標を策定、実現するための具体的な方法を考える。
1. 教員組織の編成と運営 (1)適切な組織編制 ①教授・准教授・助教のバランス ②専攻別のバランス ③男女のバランス ④年齢別の割合 ⑤学術型教員、実務型教員の割合 (2)FDの状況 ①科研費の採択 ②FD研修会の実施
2. 学生募集(とくに入学試験)の目標と達成 (1)定員の安定的確保 ①学部の定員 ②専攻別入学者数のバランス
3. 教育目標の設定と達成 (1)授業満足度の向上 (2)少人数教育の実施 (3)退学率の低減 (4)留年率の低減 (5)学修成果の評価と可視化 ①DP到達度チェックの実施 ②外部試験の導入
4. 学生支援目標の設定と達成 (1)新入生特別研修 (2)奨学金制度 ①活用 ②学生支援機構奨学金延滞率 (3)文化教養講座の実施 (4)英語スピーチ大会などへの参加 ①ゼミ・プレゼン大会 ②英語スピーチ大会
5. 国際交流(とくに留学)目標の設定と達成 (1)学生の派遣・受け入れの促進 ①派遣 (i)留学特待生、姉妹校交換留学 (ii)語学研修(短期と長期) ②受け入れ (i)連携教育プログラム (ii)姉妹校からの受け入れ (2)教員レベルの国際交流の強化 ①派遣 ②受け入れ
6. 進路(とくに就職)目標の設定と目標 (1)就職率の向上 (2)インターンシップの強化 (3)企業説明会や就職セミナーの強化 (4)英語教員の養成
7. 地域貢献 (1)文京区との連携 (2)町会活動への貢献